自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、入職時に説明している、また、目標は毎年、全職員に伝え、常に名札と一緒に携帯している	法人の理念と毎年の目標があり、職員は共有し、名札と一緒に携帯している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の会議に参加したり、職員、利用者が地区の行事に参加したり、こちらの行事に自治会の方々を招待し、イベントの際に認知症についての勉強会を開くなど交流を深めている	職員に中に地域自治会に入っている人がいるので連携がとりやすい事もあり、交流が深まっている。	今後も地域とのつきあいを続けられる様、努力をお願いしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベントに地域の方をご招待したり、地域の行事にご利用者と参加するなど、ご利用者と触れ合う機会を作ったり、認知症についてのミニ講座を開催したり、定期的に広報誌を発行している。また、運営推進会議でも自治会の方に認知症について理解していただく機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、年に2回～3回程度しか開催できていないが、地域の方、行政担当者、ご利用者とご家族の参加があり、会議では、現状報告を行い、意見交換し、行政を交え話し合う機会となっている。	高齢者福祉課の担当者の参加もあり、現状報告を行っている。参加者との意見交換も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解、把握していただき、ご意見を頂く等協力関係にある。	市とは連携を図り、情報を共有している。施設の様子を知って頂き、アドバイスを頂く協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、建物の周囲が山に囲まれて、迷って山に入ると危険な為、施錠している。また、帰宅願望があるご利用者の家族からも施錠してほしいと頼まれている。また、身体拘束に関しての勉強会を定期的に開いている。	委員会を作り、3ヶ月に1回研修、職員会議の際にも行っている。施設は利用者の安全を第一に考え、家族と話し合い検討して進めている。施設内は広く、自由に動くことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも高齢者虐待防止、身体拘束に関しての研修に参加し、勉強会や虐待防止委員会を定期的に開き施設全体として虐待防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人に障害者施設があり、合同研修などを開き、グループワークするなどの機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞き、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会時等にご家族とコミュニケーションを図り、毎日の日々の中で一人一人の思いを汲み取るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、職員会議等で仕事場への要望や意見を提案してもらう。また、年度始めや末等で個人面接を行う時に個人の意見や提案をだしてもらう機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新賃金制度について、代表者、管理者等の幹部職員で定期的に勉強会を行い、{人事評価＋年功賃金}の新制度を試行する職員個々が目標をしっかりともち、それぞれの”頑張り”を公平に評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の評価制度の充実を計り、職員一人一人を適正に評価するようにしている。事業所の内部研修を企画したり、外部研修にも極力、参加できるように努めている。また、法人全体として、資格取得応援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症家族の会等地域の会に積極的に参加し、ネットワークの強化に努めている。また、勉強会、研修会にも参加するとともに、相互訪問等を活発に行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に見学や体験にきて頂いて、当グループホームや介護保険等に関して、疑問に思うこと、不安な事やご要望などをお聞きして、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご自宅の様子、これまでの生活歴、不安に思う事、疑問に思う事、要望等を十分に聞き取り、入居後も日常の様子をご家族に報告し、相談したりと信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向、思いを把握し、納得していただいて、安心してサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者から何かを教わったり、励ましあったりといった関係を築き、ご利用者と一緒に生活するという意識をもつようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご家族にご本人の様子を話し、一緒にご本人について話し合い、相談し合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や知人などの面会は、お部屋等でゆっくり過ごしていただいている。また、ご家族、知人や友人から電話が本人宛にくると、ご本人につないでいる。ハガキや手紙等もご家族に確認後、ご本人に渡し、関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ後は面会は難しくなっている。馴染みの関係が途切れないように、手紙や電話で利用者と繋いでいる。コロナ化において新しい生活様式を考え対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないように職員が仲介し、また、ご利用者一人一人に合った役割を決め、お互いに支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙や電話、法人の作業で栽培しているお花を贈ったりというやりとりのあるご家族があり、相談や支援をできるだけするように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との普段の関わりの中で、個人個人の思いや、ご希望を聞き、なるべくご本人のご希望に合う生活をしていただけるように支援している。	1人ひとりの思い、希望に合わせた暮らし方の把握に努め支援を心がけている。日々の行動などを汲み取り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談時にご本人、ご家族にお話しを聞いたり、居宅のケアマネがついている場合には、ケアマネからもそれまでのサービス利用状況等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日のおおまかな日課は決まっているが、お声かけして、ご本人の気が乗らない場合は、ご本人の好きなように過ごしていただき、血圧や顔色、普段と違う行動など、小さな変化にも気づけるような支援をしている。また、何か変化があれば、記録や申し送りをするようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、ご家族、ご本人、管理者とで話し合い、ご家族、ご本人の要望、意向を伺い、介護計画を作成している。ご家族、ご本人へ説明し、理解していただいている。	具体的な要望は上がって来ない。本人、家族と話し合いを持ち、より良い介護計画の作成を行っている。職員同士、利用者の様子は常に共有し、利用者に合った計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事を個人のケース記録に、具体的に支援の内容と様子を記入している。日々気づいた事があれば、職員が申し送りノートに記入し、必ず、業務前に読み、サインをする事になっている。会議や打ち合わせ等で、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人、同敷地内に特養があり、ご本人の介護度が進み、グループホームでは対応が難しくなった場合などは、特養のご利用も視野にいれて検討できる。また、同敷地内の障害者施設や特養の看護師や栄養士などの支援も得られるような体制になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント、祭り、公民館主催の認知症カフェ等に参加し地域の方々と交流を深めている。同敷地内で行っている、カラー栽培の出荷時のラッピングに使用する紙を、牛乳パックから作り納品し、仕事としてのやりがいを得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご利用者のカルテを協力医に作っていただき、月3回の往診と随時通院をしている。協力医とご利用者の身体的情報を常に共有している為、速やかな医療を受けることができる。訪問歯科では定期的に口腔ケアを行い、口腔内の異常を早期発見し治療できている。	入居時に利用者のカルテを作り医師との医療連携がとれている。通院の利用者の様子を職員は共有している。訪問歯科の口腔ケア、コロナウイルスでの体温チェックなど毎日の健康管理に務めている。利用者の体温の変化があっても敷地内に看護師がいる為、対応できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気が付いたことを看護師に報告し助言、処置を受けている。不在であっても電話により指示を仰ぐことができる。また同じ敷地内の施設看護師に相談や処置を受けることもできる。コロナウイルスに伴い、法人内でのご利用者・職員の毎日の熱発者等情報を各施設で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はGHで記録している看護ファイル・サマリーを持参し病院関係者と情報を共有している。入院中は面会、電話で情報を交換し連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご本人、ご家族に説明をしている。重度化した場合は、同じ敷地内の特養への入居や医療機関への入院等、主治医、ご家族、GH職員で話し合いを重ね方針を決めていく。延命処置については、同意書を制作しご家族の意向に基づいて対応していく。協力医には同じ物をあらかじめ提出している。	重度化した場合は、家族と話し合いを行い契約書を作成している。併設の特養と連携し体制を整えている。本人、家族が納得したケアが受けられるように連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、対応できる体制にある。消防署による救命講習会を定期的に行い繰り返し学ぶことで緊急時に焦らず対応できるようにしていきたい。昨年度はAED、心肺蘇生の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度は地震想定の法人合同訓練、土砂災害・夜間想定の訓練を行った。今後もいろいろな災害を想定し訓練を続ける。昨年の大雨、台風による災害を経験し、備蓄品の更なる補充を行った。法人全体で水害に備え外構工事を進めている。	土地がら昨年の台風で被害（土砂）を受けた。地震想定した合同訓練を行っている。備蓄の補充に力を入れている。	最近は気候の温暖化で災害が多いので、訓練の強化に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の今まで送られてきた人生に敬意をはらい、誇りを大切にし職員は言葉遣いや態度に気を付けている。ご利用者によっては地域の言葉を使った方が良い関係を築ける方もいるので、その人その人にあった対応をしている。	利用者と職員との関係は良く、常に利用者に添った言葉かけを行い、対応に努めている。職員は利用者に個性をつかみ、尊厳と権利を守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昨年7月より活動的ユニット（動くことが好き・自分の意志がはっきり伝えられる・認知症状によりじっとしていられない）と、ゆったりマイペースなユニット（一人での歩行が困難・一人が好き・ゆっくり過ごしたい）に分けている。ユニットを分けたことにより一人一人の希望をきき、より細やかな対応が出来るようになった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりなユニットでは、朝食は起床されたご利用者のタイミングで摂っていただき、仕事やレク等希望に合わせて対応している。活動的ユニットでは、毎朝ご利用者と職員とでのミーティングを開き1日のスケジュールを決める。なるべく希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は季節ごとの衣替えに気を配り、ご自分で選んで着られる方が、その時々に合ったものを選べるようにしている。ご自分で出来ない方は職員と一緒に選んでいる。化粧の出来る方は自由にしていただく。冬場のリップクリームは色付きのものにし、化粧をしている気分を味わっていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩時に採ったフキノトウ・土筆・ヨモギ等山菜を持ち帰りご利用者自身で調理して味わう。畑の作物を収穫し一緒に調理をする。太巻き作りが得意なご利用者を中心に、昨年は何度も作り食卓にのぼった。ご利用者の目の前で、焼きそばやお好み焼き等を行う機会を増やし、皆様に喜ばれている。食事の準備や片付けは、出来る限りご利用者に手伝っていただいている。また、今年度より魚は地魚を使い、頭や骨の付いたものをお出ししている。ほとんどの方が上手に骨をとって召し上がり美味しいと喜んでいただいている。	施設として一番力を入れている。少し麻痺のある方でも魚の食べ方はきれい。スタッフが骨を取ったものを提供すると安心して食べてくれるが、骨がある状態での提供でも注意して食べてくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせた食事形態にしている。食品からだけでは栄養が取りにくい方は医師に相談し栄養補助の飲料も併用している。水分量は1日1500cc 以上を目標にしているが、なかなか摂ってもらえないご利用者には温度や種類を変えたり対応している。また夏場は脱水防止の為、水寒天を作り食後等に黒蜜をかけて召し上がっていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、個々に合った口腔ケアを行っている。その他の時間は本人が磨きたいときに自由に行っている。寝たきりの方は食後スポンジを使用し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排せつ状況の変化に速やかに対応できるよう、パッド等の種類も多数揃えている。職員は個々に合わせた支援を行えている。リハパンからパンツとパッドに変更なったご利用者が増えた。トイレ誘導も無理強いせず自然な流れでトイレに行かれるような声掛けに努めている。	過介護するのではなく、時間をかけて自立を促すことを意識して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の発酵食品・乳酸飲料は続けている。ほぼ毎日体操、行かれる方は散歩を行い運動不足や便秘の予防に努めている。排便表を作り、医師に相談し、便秘が続くようであれば、それぞれに合わせ便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は基本だが、好きな方には1日おきに入浴していただき希望があれば柔軟に対応している。入浴時間は本人の希望に合わせ一人ずつ入浴している。拒否のあるご利用者には職員を変えてみたり協力しあって対応している。冬場は入浴剤を使用し、保湿を保ちリラックス効果をえている。ゆず湯等も行う。	利用者の希望に合った入浴を行っている。安全を確保し対応に務めている。拒否の利用者に対しては人を変えたり、話術で対応している。利用者には入浴でリラックスされるように支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息できるようにしている。一人一人に合わせた寝具・空調温度・照明にしている。なかなか眠れず落ち着かないご利用者にはホットミルクを用意しお話を聞き、リラックスして眠りに入れるよう職員は支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるよう表・ファイルを作り、直ぐに確認できるようにしている。薬の変更があった場合も申し送り表により情報を共有している。状態観察をし往診時医師に報告している。なるべく対処療法で、薬の量や種類を減らせるよう医師と相談し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの得意分野を見出し仕事を提供し、自信に繋げられる支援をしている。アルコールが好きだったご利用者には、イベント時にノンアルコールビールをお出しして気分を味わっていただいている。コロナの影響でいちご狩りが中止となったが、ウッドデッキで洗濯ばさみに吊るした手作りいちご狩りを2回実施し、とても喜ばれた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日行っている。ユニットを分けたことにより、ゆったりのユニットは車椅子での散歩の回数が増えた。ウッドデッキに出て夕涼みやおやつ等、なるべく1日1回は外気に触れ、日光を浴びるよう努力している。行きたい場所の希望を聞いて、行かれるときにはドライブに出かけている。出先で会った人との会話や、買い物、お茶をしたりと楽しみにされている。毎年の両国での大相撲観戦も楽しみにされている。	楽しいと思ってもらえる日が1日でも多く提供できるように意識して支援している。利用者は散歩や買い物、日光浴などを行ったり、地域に出かけ人とのふれあい、交流を深めている。希望する事は出来る限り実現できるように支援に努めている。	今後、職員不足や利用者の高齢化が進むことで外出支援が出来るかが心配です。対策を考える事を望みたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが自己管理出来ない為、欲しいものがあるときは一緒に買い物に行き職員とレジを通る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけていただいている。ご家族等からかかってきた場合も自由にお話しいただいている。コロナの為、面会制限になり、2回ほど家族に写真とご利用者からの手紙を皆さん送っています。ご家族にお花（カラー）をプレゼントし「元気だよ」とメッセージを添えました。ご家族からお礼の電話や手紙が届き双方喜んでおられました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時に摘んできた花や職員が持ってきた花が一年中いたるところに飾ってある。企画やドライブに行った写真、製作品を壁に掲示している。ご利用者が塗った塗り絵のギャラリーを作り自信に繋げている。共同生活室ではカラオケや手作りすごろく、おやつ作り等行い、皆さん一日の大半を過ごされている。	共有空間には利用者が摘んだ花や家族が持ってきた花があり、季節感が常に感じられる。利用者の作った作品や写真を飾り楽しい一時を過ごせるように環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人が好きな方、仲間とお話しされている方、それぞれに過ごされています。職員はご利用者同士トラブルにならないよう見守り、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ベッドは備え付けになっているが、使用については本人とご家族に任せている。なるべく使い慣れた家具等を持ってきていただき落ち着いて過ごせるようにしている。希望があれば仏具も置いている。レクで作ったフラワーアレンジ（造花）等も個々に飾っている。	居室の家具は好みに合わせている。落ちついて過ごせる飾り付けを行い、環境のギャップを感じないように今まで使用していた家具や置物などを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活室ではご利用者それぞれの動線を考え危険のないようテーブル・椅子を配置。居室内も転倒のリスクを少なくし自立できるようベッドや家具の配置を一人一人工夫している。		